

伊予市中学生海外派遣 グアムで中学生が得たものとは



主な行程表

1日目	伊予市→松山空港→関西空港→グアム
2日目	市内観光(恋人岬、マリパークほか)
3日目	英語教室、水泳教室
4日目	英語教室、各自で昼食、グアム大学等訪問
5日目	英語教室、マリンスポーツ
6日目	英語教室、各自で昼食・買い物、交流会
7日目	ウォーターパークにて英語研修
8日目	ビーチにて英語研修、さよならパーティー
9日目	グアム→関西空港→松山空港→伊予市

市では、国際化時代を迎え、21世紀を担う中学生を海外へ派遣し、海外生活体験を通して、広く世界にはばたく人材育成を目指すことを目的として、「伊予市中学生海外派遣事業」を行っています。

市内の中学2年生25人は、8月19日から27日までの9日間、語学研修や歴史、地理等の学習、現地での生活体験学習や現地青少年との活発な交流など、研修と友好親善などを行うために、グアムへと出発しました。

参加した25人の派遣生は、この海外派遣事業で、何を学び、何を学んだのでしょうか。25人の派遣生が書いた原稿を基に報告します。

「グアム研修に参加決定！」

英語が得意ではなく、自信はあまりありませんでしたが「行きたい！」という気持ちはだれよりも強かったと思います。この研修で、日本との違いを知り、海外での体験を体や心につかり刻みみたい。 小玉恭弘さん(伊予中)

「市内見学」

私が市内見学の中ですごくいいと思った所は、恋人岬です。この岬には、とても悲しい恋伝説があるとは思えないほどきれいな所でした。 高岡愛さん(下灘中)

「わぁー海きれい！」マリパークに行くって一番最初に感じたことです。そんな海を水深10mの海中展望塔から見ることができました。また、フルーツワールドでは、グアムにしかないような果物の木がたくさんあり、そこで飲んだレモンライムジュースは甘酸っぱくて、とてもおいしかったです。 河野美沙さん(港南中)

「英語教室(1日目)」

授業では、英語を使いながらのドッジボール。思うように言葉が出なくて、英文を読むのも小さな声。「明日からは、もっと自分から取り組まなくては！」次の日から、自分から話しかけたり、言葉だけでなく、身振り手振りで相手に伝えたいことを

伝えられるようになりました。

東野佑美さん(上灘中)
初めての英語教室では、あいさつを主に勉強しました。ピーター先生とジョンとブライアンが実際の会話をしてくれました。で、分かりやすかったです。初めてで緊張したけれど、きちんと勉強できたので、日本でもきちんと使えるようにしていきたいです。 西山裕司さん(港南中)

「水泳教室」

指導者は、フランク先生というオリンピック選手を指導しているバタフライ専門のコーチでした。フランク先生の教え方はとても丁寧で分かりやすく、水泳はあまり得意ではなかったけど、とてもいい経験になりました。 田中舞さん(港南中)

「生活体験実習(昼食)」

バーガーキングというお店を選び、バーガージュニアを注文することにしました。初めて英語で注文したので、とても緊張しました。注文が終わると、「セツト？」と聞かれたので、みんな「オンリー」と答えると、ハンバーガーが4個しか出てこなくて、もう一度、ジュースを注文し直しました。この失敗も、大きな学習になり、思い出になりました。 徳田あこさん(伊予中)



「グアム大学見学」

グアム大学は、広く、緑あふれる美しいところでした。スライドを見ながらグアムの地形や歴史などのお話を聞きました。説明をしていただいた先生にお土産を手渡すと、先生にいきなり抱きしめられたので、びっくりしました。先生の優しさが伝わってきて、心の中が温かくなりました。
久保美咲さん(港南中)

「チャキロビで買い物」

たぐさんのお店が立ち並んでいていろいろな買い物をしました。単語をつなげたり、「How much is it?」など、簡単な英語でコミュニケーションをとるようにならびました。また、英語で値引き交渉をして、品物を安く買うなど、日本ではできないような体験をしました。
瀬岡実希さん(中山中)

「英語教室(3回目)」

一人ひとりに帽子が配られました。それを説明するという授業をしました。現地の英語を聞いたり、触れたりすることができ、とても勉強になり、現地の人に話しかける自信もこの教室でつけることができました。このことを普段の生活にも生かしていきたいと思っています。
大西美紗希さん(港南中)

「マリンスポーツ体験」

グアムの海は、初めて見るマリンスポーツ。砂浜の砂は、金平糖のような星の形。見るものすべてが新鮮でわくわくしました。現地の方との英会話は、速くてなかなか聞き取れませんでした。それでも通じた時は、とてもうれしかったです。学校で習う英語とは違って楽しかったです。もっと話せるようになりたい。
宮岡知未さん(港南中)

「英語教室(4回目)」

英語教室は最終日。振り返るといろいろなことがありました。緊張感から積極的な活動できないまま終わった1日目。反省し、2日目から徐々に気持ちを持ち上げていきました。そして最終日！みんなで元気を出して楽しみました。教えてくれた3人の先生にはとても感謝しています。THANK YOU VERY MUCH!
西村光平さん(港南中)

「生活体験実習(夕食②)」

バーガーキングで、フリーズドトをたのみました。ラージセットは予想外に大きく、ジュースは1リットルくらいあり、びっくりしました。注文は、英語で行いました。自分の英会話が現地の人に通じた時は、うれしかったです。大和亮介さん(港南中)

「生活体験実習(買い物)」

ABCストアでサングラスを買いました。会計をするとき、自分の言いたいことが店員さんに伝わらないんじゃないかと心配でした。でも、身振り手振りを交え、今まで習ってきた英語を使って会話をすると、しっかりと伝わったのでよかったです。
門田拓也さん(港南中)

「現地学生との交流会」

現地の学生を招いた、バーベキュー。この交流で学んだことは、話すことを恐れないということ。何より相手に伝えたいという思いが大切なんだなあと思いました。その気持ちだけで相手に伝わるということを学びました。大森マリアさん(中山中) 僕の隣に座ったブライアン(9歳)は僕が話しかけても、最初は話も聞いてくれませんでした。しかし、時間が経つにつれて、僕の名前を聞いてくれて、きちんと自己紹介ができました。僕の相手をしてくれてうれしかったです。それ以上に、ブライアンと友達になれたことがうれしかったです。三井雄介さん(伊予中)

「ウォーターパークツアー」

流れるプールや、暗闇の中をすべる滑り台などがあって、この研修で仲良くなった他校の友

「グアム研修に参加して 学んだこと・感じたこと」

私がこの研修で一番学んだことは、とにかく勇気を出して話しかけてみるということです。友達になるときも、話すことが一番のきっかけです。
戸田麻香さん(下灘中)

一番心に残ったのは、現地の人たちの交流。上手に話すことはできなかったけど、単語だけで身振り手振り、表情を交えて、自分の気持ちを表せば、相手に伝わるということを実感しました。この9日間の貴重な体験をこれからの人生に生かしていきたいです。森香織さん(港南中)

この海外派遣に参加して気付いたことが2つあります。①は「挑戦」。お店で欲しいものが出てこなかった時もありました。でも失敗して気付くことがたくさんありました。②は「コミュニケーション」。現地の人と話してみないと分からないことがたくさんありました。言葉の違う人たちとコミュニケーションをとるのは難しかったけど、貴重な体験になったし、勉強になりました。井上ひかるさん(伊予中)

達と一緒にいろいろなものを体験しました。プールで泳げるのは、今日だけなので、流れるプールを何周も回りました。本当に、いい思い出になりました。
一木映里さん(中山中)

「ビーチでの英語研修」

「さすがグアムの海だ〜」美しく青い海に目を輝かせながら海へ。英語教室で教えてくれた3人の先生と一緒に、シーカヤックでリレーなどをしました。ビーチで英語も話せたし、たくさんの人と出会い、感謝いっぱいの日でした。
塩谷京子さん(伊予中)

私たちは元気いっぱい活動しました。海岸での綱碁では、チームで作戦を立て、勝利！仲間と協力することの素晴らしさや、団結することの大切さを学ぶことができました。
仲田亜純さん(港南中)

「さよならパーティー」

現地の学生と英語で話そうとがんばったけれど、最初はほとんど通じませんでした。でも、コミュニケーションをとるうちに、だんだん通じるようになっていきました。伝えたいと思って話すと、相手も分かってくれるんだなと思いました。隅田彩香さん(伊予中) 一番印象に残っていること (左上に続く)

「グアム研修における 生徒たちの成長」

伊予市中学生海外派遣団28人(教員3人、生徒25人)は、8月20日の午前3時半にグアムのホテルに到着した。数時間の仮眠の後、市内見学に出かけた。恋人岬マリンパークなどを回り、日本と違った景色、言語文化に戸惑いながらも異国のムードを楽しんだ初日であった。
2日目から宿泊ホテルで英語研修が始まった。講師のピーター先生とアシスタント2人の授業で、レストランでのオーダーの仕事など、かなり実践的な英会話が多く、ぬいぐるみや帽子などを用いて進めるため、興味深いものであった。しかし、残念なことに生徒たちの反応がほとんどない。自主的に前に出て行ったり、進んで英語を話したりすることもない。13歳〜15歳くらいの集団特有の反応である。

夜の反省会するとき、引率教員から「結団式で積極的に英語を使ってください」と言っていたのは何だったのかと、意欲の喚起を促した。それ以来徐々に良くなり、自主的に話そうとする生徒が増えてきた。3・4日目はピーター先生も驚くくらい良くなっていた。この集団のいいところは、良くないところを指摘されれば、素直に受け止め改善し、着実に進歩するところである。

現地の子どもたちとバーベキューやウォーターパークでの遊びで、すぐに打ち解け合っており、知っている英語をどんどん使っている。帰国前日、ホテルでのさよならパーティーでは、現地の子どもたちと一緒に盛り上がり、予定時間をオーバーするほどであった。この状態になれば、教員は何も言うことはない。さすがに自分の意思で研修に参加しただけのことであると思うとともに、生徒たちの適応力に、ただただ感心するばかりであった。

生徒たちがグアム島の研修で身に付け、学習したことを今後の学校生活に生かすことができればこれ以上ことはない。

